

第5回

すさき野外博物館開催

須崎市では、「かわうそ」のまちづくり事業の一環として、失われつつある豊かな自然やそこに暮らす生きものたちと共生していくにはどうすればいいのかをみんな考えていこうと、「すさき野外博物館」を実施しています。

これは、昨年度より「NPO法人四国自然史科学研究センター」の協力を得て実施しているもので、須崎市に現存する身近な自然環境や生きものたちを訪ね、実際に見て触れることで、現状と課題をより具体的に理解していただく事を目的としています。今年度も昨年度と同様、計4回実施する予定です。

干潟の生きものを観察

「第5回すさき野外博物館」は、7月28日(土)午前10時から、桜川河口付近で行われました。桜川河口は、干潮時は「干潟」が現れ、そこには「シオマネキ」や「トビハゼ」といった貴重な生きものたちが数多く暮らしています。講師には、昨年と同様、高知大学理学部教授で、NPO法人四国自然史科学研究センター理事長の町田吉彦先生



講師の町田吉彦先生。長年、この干潟を調査・研究されています。

をお迎えしました。昨年は、小雨の降る中、傘をさしながらの観察会でした。

しんじょう

2007. 8. 1

すさき・かわうそクラブ会報

—No. 8—

発行：すさき・かわうそクラブ事務局



干潮時には干潟に暮らす生きものが多数姿を現します。県内でも数少ない環境です。

にしなければならぬとおっしゃっていました。



町田先生のお話を聴く参加者の皆さん。暑いのを我慢しています。

が、今回は天気にも恵まれ、絶好の観察日和となりました。はじめに、町田先生から、この干潟に暮らすシオマネキや

大きなシオマネキ

その後、干潟に移動し、しばらく観察していると、一匹のシオマネキが大きなハサミを振りながら巣穴から出てきました。昨年、観察したときのシオマネキはハサミが赤く全体が黒っぽい感じで、警戒心が強く、少し近づくとすぐ巣穴に隠れていましたが、今



白いハサミのシオマネキ。何やら巣穴付近で作業をしていました。

回見ることのできたシオマネキは、ハサミが白く、大きさも一回り大きいと言った感じで、近づいても巣穴には隠れず、のんびりしていました。

飛び跳ねるトビハゼ

昨年は見ることのできなかったトビハゼも、今回は見ることができました。水溜りの



腕立て伏せをするような感じで、たたずんでいました。近づく飛び跳ねます。

ようになったところに集まっていた。トビハゼというだけあって、「泳ぐ」というよりは「跳ねる」といった感じ



ここに暮らす生きものたちについて、色んなお話が聞けました。

お母さんと一緒に干潟を観察しました。

で、ピョンピョンと泥の上や水面を移動していました。岩や石をはぐったりしながらしばらく干潟の付近を観察しました。とても日差しが強く、小さな子どもたちは少々疲れ気味でしたが、最後まで

高知県希少野生動植物保護条例について

高知県では、平成17年10月に「希少野生動植物保護条例」が制定されました。これは、「高知県レッドデータブック」に掲載され、絶滅が危惧されている動植物の総合的な計画的な保護対策を推進するために制定されたものです。今年8月には、この条例に基づき、捕獲、採取、殺傷、損傷等を禁止する種の選定が行われ、「高知県レッドデータブック」の中から、特に希少な11種の動植物が指定（県指定希少野生動植物）されます。

この11種の中には「シオマネキ」や「トビハゼ」も入っているそうです。指定された動植物を捕獲又は採取する場合には、

高知県文化環境部自然共生課

TEL: 088-823-9611

ホームページ: <http://www.pref.kochi.jp/~kankyou/>

知事の許可が必要となり、（故意に）許可無く行った場合は条例により罰せられます。

詳しくは、高知県文化環境部・自然共生課のホームページをご覧ください。

自然環境やそこに暮らす生きものの共生

「自然環境を守るにはどうすればいいのか」という事に、町田先生は「人間の手を加えず、ありのままの状態を保つことが大切である。考えられる要因（例えば自然災害など）から環境を守ろうと、公園や施設を整備することが、逆に自然を壊してしまう要因となる可能性も十分にある」とおっしゃっていました。

例えば、地震や津波、台風などの大きな自然災害により自然環境が変化することは、自然なことではないかと思えます。それにより、ある種の生きものが絶滅したとしても「その環境は変わるべくして変わり、その種は絶滅するべく絶滅した」と言えるのではないのでしょうか。

しかし、人の手が加わることで自然が破壊され、環境が変化し、そこに暮らして

いる生きものたちが姿を見せなくなる事がたくさんあります。人間の暮らしが豊かになるにつれ、その数は多くなっているようです。

人間も自然の一部である事に違いありません。考え方によつては、「人工」もまた「自然」なのかも知れません。しかし、虫や動物が小枝や葉っぱ、泥などで作る「巣」と、人間がコンクリートや鉄筋で作る「高層ビル」とでは、地球に及ぼす影響は全く違います。また、クマが食べ残した鮭は、山のミネラルとなり森全体を豊かにしますが、人間の出したゴミはきちんと処理しなければゴミのままです。

中国の故事に「衣食足りて礼節を知る（管子）」という言葉があります。これは、「生活が豊かになり、ゆとりができるようになる」と、道徳心が高まり、礼儀や節度をわきまえるようになる」という意味だそうです。

「礼（礼儀）」とは、相手を尊敬し、自分を謙遜し、行いを丁寧にするを言い、「節（節度）」とは、この「礼」を時と場合にに応じて、自分の行動ができるように、わきまえる事を言うそうです。これを

あわせて「礼節」といい、昔の人はこれができるようになって初めて一人前の人間であるといったそうです。

人間は、ようやく自然環境に目を向け、地球規模で環境問題を議論するようになりました。自然環境やそこに暮らす生きものたちと共生するということは、それらに対し「礼節」をもって生活することではないのでしょうか。



今後の予定(19年度)

すさき野外博物館は、下記の内容を予定しています。詳しい内容や日時などは、広報や、各公民館・学校などに配布するチラシでお知らせします。みなさん、ぜひご参加ください。

第6回 ツバメのねぐら観察（8月）

第7回 サシバの渡り（10月）

第8回 カンムリカイツブリの湾（2月）

「すさき・かわうそクラブ 会員募集中」



「すさき・かわうそクラブ」では、かわうそのまちづくりを応援してくださる方を募集しています。詳しくは、事務局までお問合せください。

また、かわうそのまちづくりに関するご意見・ご質問などもお待ちしております。

（事務局） 須崎市企画課

〒785-8601 高知県須崎市山手町1-7

TEL 0889-42-5691 FAX 0889-42-7320

E-mail kikaku2@city.susaki.kochi.jp